

平成 22 年度国際ボランティア貯金寄附金に係る配分事業概要

特定非営利活動法人環境修復保全機構

[事業名]

小学生に対する食農環境教育及び小学校における森林再生と有機農業の実践

[対象地]

タイ国北部ナン県プア地区および周辺広域（ボクルア地区およびチェン克蘭地区）

[実施期間]

平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月

[平成 23 年 8 月までの中間報告]

本事業では、平成 19 年度上期申請援助事業より、タイ国ナン県プア地区の広域において森林の重要性を啓蒙し、森林再生による環境修復を図るとともに、現地農家に対しては有機農業を中心とした持続的農業生産環境の普及を目指している。最終年度である 5 年目にあたる本年度は、4 年間の事業で実施してきた活動を長期的に実施できる人材育成の一環として、これまで参加してきた現地農家とともに小学生を対象とした将来の農業分野の担い手育成を実施していくこととして、具体的には以下の活動の実施に当たっている。本年度は雨期の降雨量の多さにより、ナン県山岳部で大規模な土砂崩れなどの自然災害に見舞われ、本活動対象小学校や現地農家においてもその被害を受けているものが多い。特に **Bo Kluea** 地区については、地区に入るための主要な幹線道路のある山岳部での土砂崩れが進行しており、復旧の見込みも立っていない状況にある。本団体スタッフは別のルートを使用して活動実施に当たっているが、天候の推移を鑑みて地域の状況に即した活動実施となるよう、今後の活動実施において留意していきたい。

各活動項目毎の実施状況は以下の通りである。

①農業分野の担い手である小学生を対象とした食農環境教育ワークショップの開催

本活動では、プア地区を拠点とした周辺広域（ボクルア地区およびチェン克蘭地区）の合計 3 地区の小学校 5 校（ナン県プア地区 1 校、ボクルア地区 1 校、チェン克蘭地区 3 校）を対象としたワークショップを開催した。具体的にはプア地区の活動対象小学校の内 1 校である **Ban Pong Sanook** 小学校に他の地区の 4 小学校の小学生を招聘し、プア地区の小学校で実践されている取り組みを視察し、各小学校における取り組みを推進することを旨とした食農環境教育ワークショップ開催した。

ワークショップには自然災害により参加を見合わせた **Bo Kluea** 小学校を除く 3 小学校の小学生および小学校教員が参加し（平成 23 年 8 月 8 日実施、参加者数 40 名）、作成した改訂版パンフレットを配付するとともに、堆肥づくりや生物起源の防虫液づくりを行っている

る学生からの活動発表を受けると共に、小学生が取り組む養魚やゴミのリサイクル活動運営グループの活動報告も受けた。参加した他の小学校の教員は、当小学校で実践されている自主的な活動運営を非常に深い興味を持ち、小学校教員間での活発な情報交換も行われていた。ワークショップ終了後に参加した他地区の小学校を訪問すると、早速小学校教員を中心とした活動を展開している学校もあり、実際の活動を視察することで具体的な活動実践の意欲が高まることが感じられた。また、活動に参加できなかった Bo Kluea 地区の小学校については本団体職員が訪問して、ワークショップの内容についての報告やパンフレットの配布を行った。



②小学校における森林再生と有機農業を軸とした持続的農業の実践

本活動では、活動対象の 5 小学校において、学校菜園での野菜づくりに取り組むことを目指し、全ての小学校に学校菜園を整備・設置し、農具の配付を行って、小学生が有機野菜づくりに取り組む素地づくりを目指している。本年度の天候状況によって野菜栽培の開始が遅れている小学校もあるが、各小学校の状況に応じて適宜活動が推進できるように本団体職員が訪問して指導を行っている。学校菜園では、減農薬・減化学肥料による有機野菜づくりを目指した堆肥の利用を推進した。各小学校では小学生自らが小学校に設置した堆肥槽において堆肥づくりに取り組み、安定した堆肥づくりが推進できるように適宜本団体職員によって作り方の指導を行った。また同様に減農薬・減化学肥料による有機野菜づくりを目指して、生物起源の防虫液づくりに取り組めるように、バケツの配付や作り方の指導を行った。さらに、各小学校に炭焼き窯を設置して、間伐材などの自然資源の利用への理解を深めるために木炭づくりに取り組むための素地と整えた。5 小学校の内 1 校 (Bo Kluea 地区の Ban Sapan 小学校) については、同地区に木炭の利用の習慣が無いため、木炭づくりに消極的であったため、その他の活動の推移を見つつ、今後の活動の中で活動実施について検討していくこととした。また、各小学校では森林再生についての知識を深め、長期的に植林活動を実施できるように苗床を設置して苗木づくりに取り組む準備を行った。



③混農林業モデル区画を活用した持続的農業の教育啓蒙

本事業では過去2年間に3地区17箇所の混農林業モデル区画を設置し、現在も継続して運営を行っている。本年度活動においては、一部の混農林業モデル区画において小学生を招聘し、区画を運営する現地農家自らが実践している取り組みを紹介することで、小学生および小学校教員への教育啓蒙の機会を創出することとした。8月には果樹とハーブの混農林業に取り組む現地農家の圃場に小学生を招聘して、圃場内での視察を通じた持続的農業の教育啓蒙を実施した。参加した小学生および小学校教員からは、区画が整然と管理されており、また非常に多くの取り組みが実践されていることに驚いたという声が多く聞かれた。



④食農環境教育教材づくりを通じた指導者育成研修の実施

本活動では、小学校で実践的に取り組むことができる食農環境教育教材づくりを通して、指導者となる小学校教員の指導者育成研修を進めている。本事業を通してナン県において過去4年間に現地農家実践してきた取り組みを、ケーススタディーとして広く多くの人々に認知されることを目指すとともに、小学校において小学校教員が中心となって小学生を対象とした食農環境教育の実践の手引きをなる教材の創出を目指している。

⑤エココンテストの実施

本活動では小学生を対象としたエココンテストを実施し、各小学校で取り組まれている活動の奨励を行っていく。具体的には 8 月にエココンテスト実施の告知および絵画セットの配付を行い、応募に際しての説明を行った。

⑥アンケートおよび聞き取り調査の実施

本事業ではワークショップ終了後にアンケート調査を実施して、参加者の理解度や要望を把握することとした。8月に実施したアンケート調査（平成23年8月8日実施：回答者数32名より、回答のあった100%が学校菜園の取り組みに興味を持っており、94%が植林のための苗木づくりにも興味を示している。また、本活動への参加に際して「もっと多くの農業の知識を身につけたい」、「地球温暖化防止に取り組みたい」、「小学校内をきれいにしたい」などの抱負が寄せられている。また活動実施においては、適宜聞き取り調査も実施し、事業内容が地域の状況に即したものとなることを目指している。

本年度の事業実施においては、昨年度以上に天候が障害となる部分もあるが、活動対象小学校における本団体への受入状況や参加意欲は非常に高いものがあり、小学校校長や教員との連携も構築されつつある。小学校によっては非常に小さな規模であったり、山岳地の奥地に位置していたりと、対象の5小学校を取り巻く環境は様々であるが、これらの違いを越えた地域の小学校における連携づくりや、長期的な活動に実施にむけての土台づくりを、後半の活動においても現地住民とともに邁進していきたい。

以上